

平成 19 年度事業報告

I. 事業の概要

1. 研究発表会（定款第 5 条 1 号）

(1) 3月28日、29日の両日、鳥取大学において、第101回研究発表会を開催した。

・特別テーマ 「地方からの OR」

・特別講演（一般公開）

1) 鳥取県の行財政改革から

藤井善臣（鳥取県副知事）

2) 日本の工学教育認定制度

向殿政男（明治大学教授）

・発表件数 110件

一般発表 109件

・参加者数 279名

(2) 9月27日、28日の両日、政策研究大学院大学において、第102回研究発表会を開催した。

・特別テーマ 「ORの新展開－さらなる変革と融合と発展を目指して－」

・特別講演（一般公開）

1) INFORMS: And the state of OR in the US Dr. Brenda Dietrich (INFORMS 会長)

2) 永続する企業文化「HP Way」

飯塚雅樹（日本ヒューレット・パッド(株) 取締役）

・発表件数 129件

一般発表 127件

招待講演 2件

・参加者数 408名

2. シンポジウム（定款第 5 条 1 号）

(1) 3月27日、鳥取大学において、第57回シンポジウム「信頼性－温故知新－」を開催した。講演5件。参加者は56名であった。

(2) 10月13日、中央大学後楽園キャンパスにおいて、第58回シンポジウム「職業としての OR」を開催した。講演6件、パネル・ディスカッション。参加者は51名であった。

3. 普及活動（定款第 5 条 1 号）

(1) ORセミナー

・第1回「データマイニング－理論と実務の最前線－」を7月5日、東京国際フォーラムで開催した。参加者21名。

題 目	講 師
知識発見再考－データマイニングの可能性－	香田正人 (筑波大学)
データマイニングシステム構築の実際と展望	徐良為 (株)数理システム)
信販会社の加盟店管理におけるデータマイニング活用の試み	栢本淳一(新生銀行) 中村一峰(株)アプラス)
データマイニングから最適化へ－コンサルティング分野におけるマイニングの現実	松本健 (株)リクルート)

・第2回「需要予測と意思決定」を9月14日、情報オアシス神田で開催した。参加者18名。

題 目	講 師
予測モデルの理論：「様々な予測法の紹介」	上 田 徹 (成蹊大学)
予測モデルの最新動向：「予測市場システムに基づく暗黙知集約型需要予測法」	水 山 元 (京都大学)
マネジメント活用事例：「需要予測システム導入成功のポイント」	淺 田 克 暢 (キヤノンシステムソリューションズ(株))
意思決定活用事例：「エネルギー業界における需要予測と意思決定」	塩 野 直 志 (東京ガス(株))

・第3回「問題解決型意思決定手法：AHPの実践」を12月3日、東京国際フォーラムで開催した。参加者11名。

題 目	講 師
AHP/ANP とは何か	木 下 栄 蔵 (名城大学)
AHP を利用したマレーシア農村開発プロジェクトの参加型意思決定	松 村 み か (株)コーエイ総合研究所
三重県における AHP を用いた行政評価	佐 藤 祐 司 (三重中京大学)
市民からみた建設工事の事業者選定要因分析	高 野 伸 栄 (北海道大学)
電力会社の通信ネットワークにおける伝送網の選択問題への適用	大 屋 隆 生 (国士舘大学)

(2) OR 企業フォーラム

平成19年12月13日に第1回OR企業フォーラムの開催を予定していたが、講師の急病により中止となった。

(3) 企業事例交流会

- ・第19回企業事例交流会は、第101回研究発表会（鳥取大学）にて3月28日開催。発表件数3件。
- ・第20回企業事例交流会は、第102回研究発表会（政策研究大学院大学）にて9月27日開催。発表件数4件。

(4) 新宿 OR 研究会

昭和55年創設以来、年間10回の例会を開催している。テーマはOR関係の最近の動向に留まらず会員推薦の各界の話題など極めて広範、かつ時宜に適ったもので、メンバーの啓発、懇親を行っている。会誌に開催案内を掲載し、新宿地区を中心に会員の幅広い参加を呼びかけている。

4. 刊行物（定款第5条2号）

(1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」を下記のとおり発行した。

発行年月日	巻	号	発行部数
平成19年3月1日	52	3	3,300部
平成19年4月2日	52	4	3,300部
平成19年5月1日	52	5	3,300部
平成19年6月1日	52	6	3,300部

平成 19 年 7 月 2 日	52	7	3,300 部
平成 19 年 8 月 1 日	52	8	3,300 部
平成 19 年 9 月 3 日	52	9	3,300 部
平成 19 年 10 月 1 日	52	10	3,300 部
平成 19 年 11 月 1 日	52	11	3,300 部
平成 19 年 12 月 3 日	52	12	3,300 部
平成 19 年 12 月 25 日	53	1	3,150 部
平成 20 年 2 月 1 日	53	2	3,150 部

- (2) 論文誌 (Journal of the Operations Research Society of Japan)、和文論文誌 (Transactions of the Operations Research Society of Japan) を下記のとおり発行した。

発行年月日	巻	号	発行部数
平成 19 年 3 月 23 日	50	1	2,750 部
平成 19 年 6 月 19 日	50	2	2,750 部
平成 19 年 9 月 20 日	50	3	2,750 部
平成 19 年 12 月 21 日	50	4	2,600 部
平成 19 年 12 月 21 日	50		2,500 部

(和文論文誌)

- (3) 研究発表会アブストラクト集およびシンポジウム予稿集

春季・秋季研究発表会のアブストラクト集およびシンポジウム予稿集を発行した。

- (4) セミナーテキスト

「データマイニングー理論と実務の最前線ー」「需要予測と意思決定」「問題解決型意思決定手法：AHP の実践」に関するテキストを発行した。

5. 日本学術会議並びに他学協会との連携・協力 (定款第 5 条 3 号)

- (1) 日本学術会議関連

平成 18 年 8 月から総合工学分野の連携会員として高橋幸雄氏 (OR 学会前副会長・東京工業大学) が任命された。なお、FMES 関連では他に久米均氏 (QC)、圓川隆夫氏 (QC)、向殿政男氏 (信頼性) が連携会員として任命され、主として総合工学委員会、工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会の中で活動している。

- (2) 経営工学関連学会協議会 (FMES) 関連

高橋幸雄氏が FMES の会長 (2006 年 4 月から任期 2 年)、幹事は香田正人氏 (渉外理事、筑波大学) が務めている。なお、FMES の事務局は平成 17 年 7 月から (社) 日本品質管理学会が務めている。平成 19 年度の FMES の活動は以下の通り、日本学術会議と連携してのシンポジウム開催および JABEE 認定審査であった。

① シンポジウム委員会

平成 19 年度のシンポジウムは平成 19 年 6 月 29 日「情報投資と経営成果」をテーマに、日本学術会議講堂において開催された。今年度の幹事学会は経営情報学会であった。

② FMES/JABEE 委員会

当学会からは運営委員に香田正人氏、上田徹氏 (渉外委員、成蹊大学) が派遣されている。また、審査委員会にも OR 学会関係の有資格者を派遣し、経営工学分野の JABEE 認定審査に協力している。平成 19 年 9 月 29 日には、FMES 主催「JABEE 経営工学関連分野審査員講習会」を開催した。

- (3) 日本技術者教育認定機構 (JABEE)

当学会は 2001 年 2 月に正会員として加入 (会費 1 口 10 万円) するとともに上記 FMES グループとして加入、その幹事会費分 (日本経営工学会、日本品質管理学会と当学会の 3 学会が各 10 万円) を負

担している。

なお、JABEE の理事として FMES 会長の高橋幸雄氏を送っている。

(4) (社) 日本工学会関連

工学系 102 学協会の連合体である (社) 日本工学会の諸活動に協力し、また同会事務研究委員会に委員 1 名 (事務局長) が参加している。

(5) 横断型基幹科学研究団体連合 (略称: 横幹連合)

この連合は「社会発展の基礎となる新しい価値体系である横断型基幹科学技術の重要性を提唱し、その創造と進歩に資する活動を行うこと」を目的に計測自動制御学会、FMES メンバーなど 30 学会が参加して、平成 15 年 4 月に設立総会を開催し、正式発足した。当学会からは代議員として香田正人氏、理事として鈴木久敏氏 (筑波大学) が派遣されている。

6. 他学協会との交流 (定款第 5 条 3 号)

他学協会の下記講演会等に協賛、後援した。

- ・ 2007 年度秋季全国研究発表大会 (経営情報学会)
- ・ 計測自動制御学会関西支部平成 19 年度講習会 (計測自動制御学会)
- ・ 計測自動制御学会システム・情報部門学術講習会 2007 (計測自動制御学会)
- ・ 2007 年年次大会 (国際システム科学学会)
- ・ 第 57 回システム制御情報講習会 (システム制御情報学会)
- ・ スケジューリング・シンポジウム 2007 (スケジューリング学会)
- ・ 第 37 回信頼性・保全性シンポジウム (日本科学技術連盟)
- ・ 第 9 回日本感性工学会年次大会 (日本感性工学会)
- ・ 生産システム部門講演会 2007 (日本機械学会)
- ・ 第 50 回自動制御連合講演会 (日本機械学会、他)
- ・ 第 26 回日本シミュレーション学会大会 (日本シミュレーション学会)
- ・ 第 15 回春季信頼性シンポジウム (日本信頼性学会)
- ・ 日本信頼性学会フォーラム (日本信頼性学会)
- ・ 第 20 回秋季信頼性シンポジウム (日本信頼性学会)
- ・ 第 23 回ファジィシステムシンポジウム (日本知能情報ファジィ学会)
- ・ 計測・制御・システム工学部会システムフォーラム (日本鉄鋼協会)
- ・ 2007 年研究発表会 (日本リアルオプション学会)

7. 国際協力 (定款第 5 条 3 号)

- (1) IFORS (International Federation of Operational Research Societies) の副会長として大山達雄氏 (政策研究大学院大学) を選出し、各国の OR 学会との交流、協力を図った。
- (2) APORS (Association of Asian-Pacific Operational Research Societies) の副会長として大山達雄氏 (政策研究大学院大学) を選出し、アジア・太平洋地域の OR の発展と加盟学会の情報交換に協力した。
- (3) IAOR (International Abstracts in Operations Research) の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAOR の国内頒布に協力した。
- (4) APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research) の編集、発行、頒布に積極的に協力した。
- (5) EJOR (European Journal of Operational Research) の編集、頒布に協力した。

8. 受託研究活動 (定款第 5 条 4 号)

学会の公益活動の一環として、本年度も前年度に引き続き、(財) グローバル・インフラストラクチャー研究財団からの受託研究を「未来のインフラストラクチャー」研究部会を窓口を実施した。

9. 研究部会・研究グループ（定款第5条4号）

研究部会・研究グループ終了／中間報告

◎印 終了を示す

*印 研究グループを示す

☆印 常設部会を示す

部 会 名	主 査 幹 事	メンバー	開 催	内 容	場 所
☆待ち行列	小 野 里 好 邦 （群馬大学） 河 西 憲 一 （群馬大学）	22名	7回	待ち行列ならびに関連分野の専門家を招き研究発表会を開催し、理論研究から応用まで最新の成果について活発に意見交換した。また、昨年度に引き続き学生・初学者向けのチュートリアル講演を開催した。	東京工業大学
☆数理計画 （RAMP）	藤 重 悟 （京都大学） 平 井 広 志 （京都大学）	30名	1回	第19回シンポジウム（セッション：離散アルゴリズム、金融工学における最適化の実用、連続最適化の展開を10月25・26日に開催した（参加者109名）。	長崎ブリックホール
☆統合オペレーション	山 田 郁 夫 中 野 一 夫 （構造計画研究所）	13名	2回	サービスインズの最近の研究状況と日米政府の施策の展開を比較し、統合ORの立場からの課題について討論した。また、自治体における行政評価の取り組みに関する実態調査と、首長マニフェストへの対応などが報告された。	学士会館
☆評価のOR	森 田 浩 （大阪大学） 関 谷 和 之 （静岡大学）	14名	5回	年4回の定例研究会を開き、ORでの評価手法、意思決定手法に関する研究発表を8件行った。秋季研究発表会で「評価のOR」特別セッションを行い、他にもDEAシンポジウムを開催し、基調講演2件、招待講演5件と一般講演13件を行った。	政策研究大学院大学
☆意思決定法	木 下 栄 蔵 （名城大学） 大 屋 隆 生 （国士舘大学）	26名	3回	AHPを中心とした意思決定法に関する発表により、意思決定手法の理解を深め、マネジメントにおける適用性を高めることができた。AHP普及のため第3回ORセミナーを実施した。	国士舘大学
◎サプライチェーンネットワーク	高 井 英 造 （フレームワークス） 草 刈 君 子	50名	8回	8回の研究会を開催（3年で27回延参加者760名）。サプライチェーンネットワーク合理化の展開に関して、実務家と専門家の協働による多面的な研究を行い、人的ORネットワーク形成も行った。資料と記録はホームページで公開。	青山学院大学

部 会 名	主 幹 査 事	メンバ -	開 催	内 容	場 所
◎食料・環境問題における数理的的手法	伊 藤 健 (東北大学) 毛利進太郎 (神戸学院大学)	19名	5回	食料・環境問題に纏わる様々な取り組みについてメンバー間で多くの知見を共有するとともに、数理的な改善の可能性を議論し、今後の課題解決・発展に対する意見交換を行った。	東 北 大 学
◎マーケティングインテリジェンス	中 川 慶 一 郎 (NTT データ) 生 田 目 崇 (専修大学)	30名	6回	マーケティング活動にデータを活用する技術、分析手法の研究を行った。最新の研究報告の他、データ分析技術の発展と意見交換を含めて、データ解析コンパニオンを開催し、28チーム、130名の参加を得た。	(株)NTT データ
◎知的決定支援の理論と方法	乾 口 雅 弘 (大阪大学) 西 竜 志 (大阪大学)	15名	5回	5回の研究会を開催し、意思決定理論や最適化に加えて、メタヘurisチック、データマイニング、ファジ理論などの知能工学的手法も視野に入れて、知的意思決定支援の理論や方法について検討した。	大 阪 大 学
◎情報ネットワーク性能評価	岳 五 一 (甲南大学) 米 山 寛 二 (兵庫県立大学)	16名	7回	マルチメディア通信、アドホックネットワーク、性能解析・評価・最適化手法などに関して最先端の理論的研究のみならず実践的な研究についても講演していただき、産官学の学術交流と若手研究者の育成を推進した。	甲 南 大 学
◎若手 OR 研究者の会	増 山 博 之 (京都大学) 檀 寛 成 (関西大学)	9名	5回	5回の研究会を開催し、待ち行列理論、確率行列、数理計画、組合せ最適化など、14件の研究発表がなされ、若手研究者による OR 横断的な研究会たらしとする設立趣旨に則った活動が行なわれた。	京 都 大 学
OR と 実 践	成 瀬 喜 則 (富山商船高等専門学校) 金 子 宏 之 (小松短期大学)	13名	5回	北陸地区を会場にして、5回の研究会を行った。地域経済発展、企業合併、ポートフォリオ等様々なテーマを対象にして、OR の手法を諸課題解決に適用した研究発表が行われ活発な議論がなされた。	富 山 県 民 会 館
計算と最適化	村 松 正 和 (電気通信大学) 森 口 聡 子 (上智大学)	15名	5回	毎回2名の講演者を招き、問題解決の数理的手法としての計算及びアルゴリズムに関する研究発表を行った。他に筑波で合宿形式の研究会を開き、2件の特別招待講演と18件の一般発表を行った。	上 智 大 学
ゲーム理論と経済工学	武 藤 滋 夫 (東京工業大学) 福 田 恵 美 子 (防衛大学校)	50名	9回	9回の研究会を開催し10件の報告があった。理工学、社会科学の各分野での成果を相互に取り入れた理論の進展製について、有意義な研究交流を行うことができた。	東 京 工 業 大 学

部 会 名	主 査 事	メンバー	開催	内 容	場 所
コンピューテーション	加藤直樹 (京都大学) 藤江哲也 (兵庫県立大学)	15名	5回	毎回2~3名の講師を招き、最適化理論・アルゴリズム理論・計算量理論といった計算に関連する研究発表をしていただき、情報交換や議論を行った。	京 都 大 学
不確実性環境下での意思決定の理論と応用	菊田健作 (兵庫県立大学) 川勝英史 (流通科学大学)	11名	5回	不確定な要素を含む問題に関連した内容を中心に、ゲーム理論、在庫管理、信頼性、金融工学、情報処理等の分野から報告していただいた。活発な議論や質疑応答を通じて研究交流を行い、多くの知見を得ることができた。	流 通 科 学 大 学
安全安心学	氏田博士 (エネキ-総合工学研究所) 増田浩通 (東京工業大学)	20名	5回	5回の研究会を開催し、内容は、ヒューマンエラー、工場における組織事故、迷惑メール対策、MOTにおけるリカバリエメント、警察行政における安全安心対策と多岐にわたり、充実した研究部会であった。	エネキ-総合工学研究所
SCM時代の製造マネジメント	伊呂原隆 (上智大学) 成松克己 (東芝)	30名	9回	環境、会計、デジタル特性など、様々な観点で製造マネジメントを議論する会合を行った。各会合で基本的に1人の講演を依頼し、1時間を講演、1時間を質疑にあて、十分な内容の理解と議論を行った。	青 山 学 院 大 学
ソフトコンピューティングとOR	片桐英樹 (広島大学) 柴田淳子 (神戸学院大学)	12名	5回	ソフトコンピューティング手法とORの融合分野の理論と応用、並びに実社会への応用問題について検討を行った。当学会の他研究部会と共催で研究会を実施し、研究者間の交流の活性化に努めた。	大 阪 、 広 島
ファイナンスと意思決定	木島正明 (首都大学東京) 田中敬一 (首都大学東京)	12名	8回	無裁定理論をベースにした様々なオプション価格、リアルオプションによる意思決定の問題、金融リスク管理、整数計画法の応用に関する研究を行った。チュートリアルセッションや実務家の研究発表も行われた。	首 都 大 学 東 京
不確実環境下での柔構造最適化モデリング	岩村覚三 (城西大学) 安田正實 (千葉大学)	9名	6回	確率論では捕らえられない不確実性測度の理論的研究を行った。また、不動点近似問題、ダ付ミッドプログラム最適経路問題、GAやAHPモデルの他に品質管理などの確率モデルなどを研究した。	千 葉 大 学
未来のインフラストラクチャー	栗田治 (慶應義塾大学) 高嶋隆太 (東京大学)	20名	11回	未来のインフラストラクチャーに関連する問題をORの立場から整理し、モデル分析を行った。具体的には電力需給、交通インフラストラクチャー、インフラ整備のプロジェクトマネジメント等のモデル開発が活発に行われた。	日 本 G I F 研 究 財 団

部 会 名	主 幹 査 事	メンバー	開 催	内 容	場 所
◎*防衛と安全	宝 崎 隆 祐 (防衛大学校) 小 宮 享 (防衛大学校)	23名	7回	今年度は7回の研究会を実施し、防衛と安全という広範な分野における諸問題について、各分野での最新の研究状況や成果の報告を受け、OR 的見地からの分析に必要なテーマと問題の発掘ができた。	政策研究大学院大学

10. 表 彰 (定款第5条5号)

- (1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞
第36回文献賞の選考を行い、以下のとおり決定した。
該当なし
- (2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞奨励賞
第3回文献賞奨励賞の選考を行い、以下のとおり決定した。
 - ・ A Nonmonotone Memory Gradient Method for Unconstrained Optimization
Journal of the Operations Research Society of Japan Vol.50, No.1
成 島 康 史 (東京理科大学)
 - ・ Large-scale semidefinite programs in electronic structure calculation
Mathematical Programming Series B 109
福 田 光 浩 (東京工業大学)
- (3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞
第33回普及賞の選考を行い、以下のとおり決定した。
 - ・ 木 下 栄 蔵 (名城大学)
 - ・ 前 田 忠 昭 (東京ガス(株))
- (4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞
第32回実施賞の選考を行い、下記のとおり決定した。
株式会社 野村総合研究所
- (5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究賞
第28回事例研究賞の選考を行い、以下のとおり決定した。
 - ・ 裁判員制度における判決の信頼性
オペレーションズ・リサーチ Vol.52, No.12
松田走一郎、小澤正典、森 雅夫 (慶應義塾大学)
 - ・ Emerging Sequence Pattern に基づく Web アクセスログデータからの知識発見
平成18年度データ解析コンペティション
羽室行信、山本昭二、中西正雄 (関西学院大学)
- (6) 日本オペレーションズ・リサーチ学会業績賞
第9回業績賞の選考を行い、以下のとおり決定した。
宮 沢 政 清 (東京理科大学)
- (7) 日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞
第25回学生論文賞の選考を行い、以下のとおり決定し、授賞を行った。
 - ・ ハブ・アンド・スポークネットワークの設計問題の近似解法
岩 佐 大 (東京大学・修士論文)
 - ・ 最適停止構造をもつ経路依存型オプションの価格評価
菊 地 一 哲 (北海道大学・修士論文)

- ・ A scatter search algorithm for the multi-resource generalized quadratic assignment problem
小宮 彬 (京都大学・修士論文)
- ・ Algorithmic Computation of the Transient Queue Length Distribution in the BMAP/D/c Queue
大黒健太郎 (京都大学・修士論文)
- ・ A Unified Approach to Combinatorial Algorithms for Matchings and Matroids
高澤兼二郎 (京都大学・修士論文)
- ・ Discrete Optimization Approach to Index Reduction for Differential-Algebraic Equations
高松瑞代 (東京大学・修士論文)
- ・ 順序付け尺度のゲーム論的解釈と数値計算による検証
流王智子 (筑波大学・卒業論文)

11. 創立 50 周年記念事業 (定款第 5 条 6 号)

当学会は 1957 年 6 月 15 日に設立され、2007 年同月同日に創立 50 周年を迎え、記念事業として以下のものを実施した。

(1) 創立 50 周年記念式典・講演会

平成 19 年 9 月 26 日 (水) に政策研究大学院大学想海樓ホール (東京・六本木) において、創立 50 周年記念式典・講演会・祝賀パーティー開催し、以下の参加者を得て盛会裡に終了した。

- ①式典 : 141 名
- ②講演会 : 206 名
- ③祝賀パーティー : 113 名

第 I 部記念式典では、IFORS 会長の Elise del Rosario 氏の来賓祝辞に続いて、第 1 回近藤賞授賞式、近藤賞受賞記念講演が行われた。

第 II 部講演会では以下の各界著名人 4 氏による講演をいただいた。

- ・岡村 正氏 (㈱東芝 取締役会長) 「イノベーションを創出する企業経営」
- ・南部靖之氏 (㈱パソナ 代表取締役グループ代表兼社長) 「企業価値を高める人材活用」
- ・黒川 清氏 (政策研究大学院大学 教授・前日本学会会議会長) 「イノベーション」
- ・鳩山由紀夫氏 (衆議院議員・民主党幹事長) 「政治を科学するのか、科学を政治するのか」

第 III 部記念祝賀パーティーでは、政策研究大学院大学学長のご挨拶の後、OR 事典・アーカイブ紹介なども行なわれた。

(2) 秋季研究発表会特別セッション

創立 50 周年記念式典・講演会に続き 9 月 27 日、28 日に政策研究大学院大学にて平成 19 年秋季研究発表会を開催した。同発表会において 50 周年を記念する特別講演 2 件ならびに国際セッションを実施した。

INFORMS 会長である Brenda Dietrich 氏による特別講演では、INFORMS の概要に続き、より統合的な実務への OR の適用に関する説明がなされた。発表会 2 日目の飯塚雅樹氏 (日本ヒューレット・パカード㈱取締役) による特別講演では、1950 年代に生まれ今も全社員に受け継がれる企業理念 HP way の紹介を中心に講演をいただいた。

国際セッションは、国際交流事業の一環として実施した。前中国 OR 学会会長、前韓国 OR 学会会長、IFORS 会長、INFORMS 会長による基調講演に続き、日本 OR 学会から伏見正則氏、高森寛氏、大山達雄氏、香田正人氏をパネリストに加えパネルディスカッションが行われた。洋の東西を問わず、OR をより広く知ってもらうことが重要である点など共通の課題認識が得られた。

(3) OR 誌創立 50 周年記念特集号の発刊

創立 50 周年記念特集号として、52 巻 6 月号「歴代会長からのメッセージ」、52 巻 9 月号「新・OR の図解」、52 巻 12 月号「近未来社会からの OR への要請」を発行した。

(4) JORSJ 創立 50 周年記念特集号の発刊

英文論文誌 JORSJ Vol. 50, No.4 を創立 50 周年記念特集号として 2007 年 12 月に発行した。本特集号

は、OR 研究の将来につながる質の高い論文 16 編を掲載したもので、その内容は各分野の若手エース級研究者の招待論文を中心として特に論文の質にこだわった。

(5) OR アーカイブの作成・公開

OR 学会の資産であるこれまでに発行された機関誌、論文誌、研究発表会アブストラクト集のアーカイブを作成し 9 月 26 日の記念式典に併せ学会ホームページ上で公開した。現在、機関誌は Vol.41~Vol.50、論文誌は Vol.39~Vol.48、アブストラクト集は 1995 年春季~2005 年春季、シンポジウム予稿集は題 33 回~第 53 回を掲載している。

(6) OR 事典 2007 の発刊

OR 事典 2000 を改訂し、wiki を使った OR 事典 ORwiki を作成し、学会ホームページ上で公開した。
(<http://www.orsj.or.jp/~wiki/wiki/>)。具体的な内容としては、OR 事典 2000 の全面的見直しを行い、基礎編については 4 項目を削除して新たに 28 項目を追加、用語は 300 語を追加、事例編は OR アーカイブズのインデックスを作成、資料編はその後の変化を収録するなどして、新たに構成し直した。公開後も wiki の長所を生かし、編集委員会を中心に改訂作業を行っている。3 月現在のヒット件数は 8 万件である。

(7) 近藤賞の創設

OR の研究・教育・普及に傑出した業績を挙げた個人またはグループを称え、我が国におけるオペレーションズ・リサーチの発展に資するとともに、この分野を広く社会に周知させることを目的として「近藤賞」を創設し、募金活動を行った。

近藤賞の創設にあたり、平成 18 年度から近藤賞準備委員会委員長として今野浩氏 (OR 学会前会長・中央大学)、準備委員として大山達雄氏 (OR 学会副会長・政策研究大学院大学) と香田正人氏 (筑波大学) が務めている。

近藤賞基金への募金にあたっては、近藤賞募金委員会委員長として今野浩氏、委員として大山達雄氏、前田忠昭氏 (東京ガス)、森清亮氏 (電力中央研究所)、香田正人氏が務め、平成 19 年に延べ 2,245 人・社の応募があり、募金総額は 15,998,000 円であった。

第 1 回受賞者には茨木俊秀氏 (関西学院大学教授・京都大学名誉教授) を決定し、9 月 26 日の創立 50 周年記念式典において表彰した。

(8) 記念出版

創立 50 周年記念として、次の 2 シリーズを朝倉書店から出版中である。

1) シリーズ「オペレーションズ・リサーチ」第 1 回配本

木下栄蔵・大屋隆生著「戦略的意思決定手法 AHP」平成 19 年 9 月 25 日発行

2) 基礎数理講座 第 1 回配本

刀根 薫著「数理計画」平成 19 年 9 月 20 日発行

(9) SSOR (Summer Seminar of OR)

若手実務家・研究者・学生の有機的なつながりを創出する場を設け、OR 普及の拡大を図ることを目的とし、平成 19 年 8 月 29~31 日 (2 泊 3 日) の日程で、伊東ホテル聚楽 (静岡県伊東市) にて、合宿形式の研究発表会を実施した。参加者 165 名、発表件数 52 件と過去の SSOR と比べても最大規模である。効果的な人材交流並びに創造的な活動創出の場として、従来の研究発表会では構築が難しい異分野での個人的なネットワークの創出をサポートできた。また、部会や支部での表彰の先駆けとなるものとして、SSOR Presentation Award という新たな取組みも行った。

(10) 国際交流事業

特別講演として「INFORMS : And the state of OR in the US」というタイトルで Brenda Dietrich 氏 (INFORMS 会長) の講演を実施した。また、Elise del Rosario 氏 (IFORS 会長)、Xiang-Sun Zhang 氏 (前中国 OR 学会会長)、Sung Joo Park 氏 (前韓国 OR 学会会長)、Brenda Dietrich 氏をパネリストに迎え、「ORSJ 50th Anniversary : Past, Present and Future」と題したパネルディスカッションを開催した。

12. 支部活動（定款第5条6項）

支部ごとに次のとおり活動した。

支 部 活 動 報 告

	北海道	東北	中部	関西	中国四国	九州
運営会議	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 3回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会・幹事会 2回
研究会		研究会 2回 (うち1回は 研究部会との 共催)	研究会 1回 支部研究発表 会 1回	産学研究者交 流会 1回	1研究部会	研究会 3回
講演会	講演会 2回	講演会 1回	特別講演会 1回 支部講演会 1回	講演会 2回	講演会 4回	講演会 3回
講習会						
出版			支部ニュース 5回 アブストラク ト集 1回	OR誌 52巻5 号特集担当 OR誌 53巻5 号特集企画		
その他	チュートリア ルセミナー 1回		支部シンポジ ウム 1回 中部 OR 研究 会 2回	支部ホームペ ージの運営	支部シンポジ ウム 1回 安全性・信頼性 ワークショップ 1回 平成19年春季 研究発表会 第57回シンポ ジウム	

II 処務の概要

1. 役員に関する事項

理事	非常勤	監事	非常勤
定数：12人から18人	(現在：17人)	定数：2人	(現在：2人)
任期：2年		任期：2年	

平成19年度末現在

理事・監事の役職	氏名	常勤 非常勤 の別	就任年月日	担当職務	報酬	現職
理事(会長)	青木利晴	非常勤	18. 4. 24	会務の総理	なし	(株)NTT データ相談役
" (副会長)	大山達雄	"	"	"	"	政策研究大学院大学教授
" (")	川島幸之助	"	19. 4. 23	"	"	東京農工大学教授
" (")	野村淳二	"	"	"	"	松下電工(株)代表取締役 取締役副社長
" (庶務)	矢島安敏	"	"	庶務	"	東京工業大学准教授
" (")	齋藤司郎	"	"	"	"	(株)理経 企画開発部顧問
" (会計)	樫尾博	"	18. 4. 24	会計	"	東京ガス(株)マネージャー
" (研究普及)	羽鳥彰一	"	"	研究普及	"	横河電機(株)
" (")	久野誉人	"	19. 4. 23	"	"	筑波大学准教授
" (編集)	矢部博	"	18. 4. 24	論文誌編集	"	東京理科大学教授
" (")	山下英明	"	19. 4. 23	機関誌編集	"	首都大学東京教授
" (国際)	鈴木勉	"	"	国際	"	筑波大学教授
" (涉外)	香田正人	"	18. 4. 24	涉外	"	筑波大学教授
" (広報)	中川慶一郎	"	"	広報	"	(株)NTT データ
" (無任所)	河合一	"	"	無任所	"	鳥取大学教授
" (")	吉野秀明	"	"	"	"	NTT サービスインテグレーション 基盤研究所
" (")	木村俊一	"	19. 4. 23	"	"	北海道大学教授
監事	高橋誠	"	18. 4. 24	定款19条	"	(株)電力計算センター取 締役技術営業本部長
"	逆瀬川浩孝	"	19. 4. 23	"	"	早稲田大学教授

2. 職員に関する事項

平成 19 年度末現在

職名	常勤・非常勤	氏名	採用年月日	担当事務	備考
事務局長	常勤	丸山 武	2007. 7. 1	総括・渉外・会計	
職員	"	鳴原 真澄	1990. 5. 8	庶務・編集	
"	"	棟安 美恵	1998. 10. 1	会員管理・研究普及	

3. 会議に関する事項

(1) 臨時総会

開催年月日	議 事 事 項	結 果
19. 2. 26	1. 平成 19 年度事業計画の件 2. 平成 19 年度収支予算の件 3. 名誉会員推薦の件	承認 " "

(2) 通常総会

開催年月日	議 事 事 項	結 果
19. 4. 23	1. 平成 18 年度事業報告の件 2. 平成 18 年度収支計算報告および監査報告の件 3. 平成 19 年度 20 年度役員選任の件	承認 " "

(3) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	結 果
19. 5. 18	1. 平成 18 年度第 7 回理事会議事録の件 2. 平成 19 年度通常総会議事録の件 3. 入退会承認の件 4. 平成 19 年度委員会委員・幹事委嘱の件 5. 会長候補者選考委員会委員選挙の件 6. 平成 19 年春季研究発表会終了及び決算報告の件 7. 平成 19 年度支部運営費、事業費の件 8. 50 周年記念式典・講演会プログラム案の件 9. 事務局長交代の件 10. 支部決算報告の件 11. 平成 20 年秋季研究発表会・シンポジウム企画案の件	承認 " " " " " " " " 報告 承認 報告
19. 7. 20	1. 平成 19 年度第 1 回理事会議事録の件 2. 入退会承認の件 3. 平成 19 年度委員会委員・幹事委嘱追加の件 4. 第 1・四半期収支報告の件 5. 近藤賞選考の件 6. 第 25 回学生論文賞候補の件 7. 会長候補者選考委員会委員選挙の件 8. FMES 経営工学分野審査講習会協賛の件 9. 平成 19 年度支部事業費進捗状況及び平成 20 年度事業計画の件 10. 平成 19 年秋季研究発表会に際しての各種委員会等の件 11. 平成 20 年春季研究発表会開催日程の件 12. 第 58 回シンポジウム予算案改訂版の件	承認 " " " " " " " " 報告 " 承認 "

開催年月日	議 事 事 項	結 果
20. 2. 18	3. 学会賞授賞候補推薦の件	〃
	4. 新フェロー推薦の件	〃
	5. 平成 19 年度臨時総会議案の件	〃
	6. 感謝状贈呈の件	〃
	7. 日本工学会評議員推薦承認の件	〃
20. 4. 14	1. 総会議案の件	承 認
	2. 平成 19 年度第 6 回理事会議事録の件	〃
	3. 平成 19 年度臨時総会議事録の件	〃
	4. 春季支部長会議議事録の件	〃
	5. 入退会承認の件	〃
	6. 平成 21 年春季研究発表会日程の件	〃
	7. 研究部会名変更願いの件	〃
	8. 50 周年記念事業決算案の件	〃
	9. 感謝状贈呈に関する申し合わせの件	〃
	10. ウェブリオ(株)と ORwiki とのリンクの件	〃
	11. JORSJ50 周年特集号一般公開の件	〃
	12. 支部決算報告の件	〃
	13. FMES 代表者会議の件	報 告
	14. 第 24 回 FMES シンポジウムの件	〃

(4) 支部長会議

支部長会議は3月（鳥取）と9月（東京）の2回開催し、OR学会の諸問題について意見を交換し、本部と支部の意見調整を図った。

(5) 委員会・幹事会

・常設委員会

委 員 会 名	議 事 事 項	回 数
研究普及委員会	研究発表会等の企画・開催、他	7回
機関誌編集委員会	企画の進捗状況確認並びに新企画の提案、他	6回
論文誌編集委員会	投稿論文査読状況の確認、他	2回
表彰委員会	学会賞の選考・表彰規定の改定、他	4回
広報委員会	学会 Web の充実、広報課題の検討、他	1回
OR 事典編集委員会	OR 事典改訂方針・編集体制、他	5回

・その他の委員会・幹事会

委 員 会 名	議 事 事 項	回 数
庶務幹事会	理事会の議事についての予備審議、他	7回
会長候補者選考委員会	会長候補者の選考	1回
近藤賞選考委員会	近藤賞の選考	1回
業績賞選考委員会	業績賞の選考	1回
フェロー会議	新フェローの選考	1回
研究部会主査会議	研究部会経過報告	1回
会員増強委員会	会員増強について	3回

4. 許可・認可・承認・証明に関する事項

該当なし

5. 契約に関する事項

該当なし

6. 寄付金に関する事項

前年度に引き続き近藤賞基金の募金を行い、総口数 1,051 口、総額 9,195,000 円の寄付金があった。その累計は、総口数 2,268 口、総額 15,998,000 円である。

なお、平成 20 年 1 月より第 2 期の募金を開始している。

7. 主務官庁からの連絡事項等

連絡年月日	連絡事項	履行状況
平成 19 年 4 月 17 日	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う感染症の病原体等の管理規制に関する説明会の開催について	
平成 19 年 6 月 15 日	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う感染症の病原体等の管理規制の周知について（通知）	
平成 19 年 9 月 4 日	実地検査の結果について（通知）	平成 20 年 2 月 26 日回答
平成 19 年 10 月 9 日	平成 19 年度公益法人概況調査等の実施について（依頼） 「公務員制度改革大綱に基づく措置について」の進捗状況調査等にういて（依頼） 「公益法人に対する行政の関与の在り方の改革実施計画」のフォローアップ調査について（依頼） 新公益法人制度に係るアンケートについて	平成 19 年 10 月 23 日回答
平成 20 年 1 月 17 日	病原性微生物等の保管・管理の徹底及び保有状況等の調査の実施について	平成 20 年 1 月 23 日回答
平成 20 年 1 月 22 日	特定病原体等の適正な取扱いについて（周知依頼）	
平成 20 年 1 月 22 日	農林水産大臣がその生産又は流通を所管する遺伝子組換え植物に係る第一種使用規定の承認及び農林水産大臣がその生産又は流通を所管する遺伝子組換え生ワクチンに係る第一種使用規定の承認の申請について（通知）	
平成 20 年 2 月 8 日	平成 20 年度（第 49 回）科学技術週間について（依頼）	

8. 会員状況

(1) 入退会内訳

		名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員		合計	
					A種	B種		
平成19年2月末日		11	2,112	222	59 (68)	25 (25)	2,429 (93)	
平成 19 年 度	入会		50	68	4 (4)	1 (1)	123 (5)	
	移動	学→正		37	△ 37			
		正→学		△ 1	1			
		正→名	3	△ 3				
	退会	△ 1	△ 113	△ 17	△ 6 (△ 6)	△ 2 (△ 2)	△ 139 (△ 8)	
	除名		△ 28	△ 18			△ 46	
	復活		1				1	
純増減		2	△ 57	△ 3	△ 2 (△ 2)	△ 1 (△ 1)	△ 61 (△ 3)	
平成20年2月末日		13	2,055	219	57 (66)	24 (24)	2,368 (90)	

() は口数

(2) 地域別内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員	
				A種	B種
本部	8	1,198	145	42 (50)	23 (23)
北海道		66	1	2 (2)	
東北	1	77	1	1 (2)	
中部	1	201	16	3 (3)	
関西	3	287	43	6 (6)	1 (1)
中国・四国		122	4	2 (2)	
九州		104	9	1 (1)	
合計	13	2,055	219	57 (66)	24 (24)

() は口数

収 支 計 算 書

平成19年3月1日から平成20年2月29日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①基本財産運用収入				
基本財産運用利息	10,000	14,000	△ 4,000	
基本財産運用収入計	10,000	14,000	△ 4,000	
②入会金収入				
正会員入会金収入	90,000	75,000	15,000	
学生会員入会金収入	60,000	40,800	19,200	
入会金収入計	150,000	115,800	34,200	
③会費収入			0	
正会員会費収入	29,610,000	29,684,000	△ 74,000	
学生会員会費収入	1,350,000	1,320,000	30,000	
賛助会員会費収入	7,850,000	7,898,000	△ 48,000	
会費収入計	38,810,000	38,902,000	△ 92,000	
④事業収入				
会誌頒布収入	5,400,000	4,485,593	914,407	
機関誌	4,000,000	3,142,603	857,397	注2
論文誌	1,400,000	1,342,990	57,010	
研究発表会収入	5,000,000	4,275,000	725,000	注3
シンポジウム収入	300,000	155,000	145,000	
セミナー収入	1,500,000	1,080,000	420,000	
資料等頒布収入	300,000	141,300	158,700	
IAOR収入	315,000	315,000	0	
EJOR収入	558,000	527,000	31,000	
APJOR収入	220,000	210,000	10,000	
受託研究収入	1,000,000	1,000,000	0	
50周年記念事業収入	0	746,881	△ 746,881	注4
事業収入計	14,593,000	12,935,774	1,657,226	
⑤その他収入				
論文投稿掲載料収入	1,125,000	1,509,000	△ 384,000	
広告収入	4,500,000	4,344,000	156,000	
名簿収入	0	5,000	△ 5,000	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
OR事典収入	0	4,500	△ 4,500	
事務委託収入	150,000	150,000	0	
その他収入計	5,775,000	6,012,500	△ 237,500	
⑥寄付金収入				
寄付金収入	19,000,000	9,195,000	9,805,000	注1
寄付金収入計	19,000,000	9,195,000	9,805,000	
⑦雑収入				
受取利息収入	20,000	257,455	△ 237,455	
雑収入	0	200,216	△ 200,216	
雑収入計	20,000	457,671	△ 437,671	
事業活動収入計	78,358,000	67,632,745	10,725,255	
2. 事業活動支出				
①事業費支出				
給料手当支出	8,000,000	7,911,391	88,609	
臨時雇賃金支出	2,000,000	1,322,000	678,000	
旅費交通費支出	500,000	428,340	71,660	
通信運搬費支出	5,800,000	5,093,050	706,950	
消耗品費支出	400,000	392,520	7,480	
会議費支出	300,000	138,138	161,862	
印刷製本費支出	12,150,000	11,327,977	822,023	
機関誌	9,500,000	9,798,058	△ 298,058	注4
論文誌	2,500,000	1,526,979	973,021	注4
印刷費	150,000	2,940	147,060	
研究発表会支出	5,000,000	3,161,634	1,838,366	注3
開催費	3,620,000	2,128,407	1,491,593	
印刷費	1,380,000	1,033,227	346,773	
国際協力費支出	1,513,000	1,316,986	196,014	
IFORS会費	340,000	359,623	△ 19,623	
IAOR購入費	293,000	275,967	17,033	
EJOR購入費	560,000	432,000	128,000	
APJOR購入費	220,000	166,642	53,358	
APORS関係費	100,000	82,754	17,246	
研究活動費支出	2,175,000	1,983,383	191,617	
シンポジウム開催費	300,000	325,500	△ 25,500	
セミナー開催費	1,275,000	1,448,049	△ 173,049	
OR企業フォーラム	600,000	209,834	390,166	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
研究部会費支出	1,035,000	909,794	125,206	
支部運営費支出	1,589,100	1,549,348	39,752	
支部事業費支出	610,000	537,926	72,074	
表彰事業費支出	900,000	1,451,543	△ 551,543	
諸謝金支出	1,600,000	1,463,536	136,464	
受託研究費支出	1,000,000	1,000,000	0	
FMES関係費支出	500,000	463,971	36,029	
名簿作成費支出	400,000	0	400,000	
50周年記念事業費支出	8,000,000	6,259,876	1,740,124	注4
近藤賞関係支出	1,500,000	2,060,290	△ 560,290	注1
事業費支出計	54,972,100	48,771,703	6,200,397	
②管理費支出				
給料手当支出	8,000,000	7,911,391	88,609	
退職給付支出	0	162,000	△ 162,000	
福利厚生費支出	2,500,000	2,189,473	310,527	
会議費支出	400,000	272,210	127,790	
旅費交通費支出	1,600,000	921,460	678,540	
通信費支出	1,000,000	771,106	228,894	
事務用消耗品費支出	50,000	20,204	29,796	
消耗品費支出	150,000	412,151	△ 262,151	
修繕費支出	50,000	71,400	△ 21,400	
印刷費支出	600,000	150,019	449,981	
家賃支出	3,750,384	3,750,384	0	
共益費支出	1,630,000	1,625,400	4,600	
保険料	10,000	10,000	0	
支払手数料支出	270,000	258,910	11,090	
租税公課支出	580,000	325,800	254,200	
負担金支出	50,000	3,500	46,500	
リース料支出	600,000	420,504	179,496	
OA化準備費支出	200,000	38,764	161,236	
損金支出	700,000	536,087	163,913	
雑費支出	100,000	544,757	△ 444,757	
管理費支出計	22,240,384	20,395,520	1,844,864	
事業活動支出計	77,212,484	69,167,223	8,045,261	
事業活動収支差額	1,145,516	△ 1,534,478	2,679,994	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
Ⅱ. 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入				
国際協力積立金資産取崩収入	0	0	0	
財政調整積立金資産取崩収入	8,754,484	8,754,484	0	
名簿作成準備積立金資産取崩収入	0	0	0	
50周年記念事業積立金資産取崩収入	8,000,000	8,000,000	0	注4
特別研究積立金資産取崩収入	0	0	0	
表彰事業積立金資産取崩収入	100,000	100,000	0	
近藤賞基金引当資産取崩収入	1,500,000	2,060,290	△ 560,290	注1
特定資産取崩収入計	18,354,484	18,914,774	△ 560,290	
投資活動収入計	18,354,484	18,914,774	△ 560,290	
2. 投資活動支出				
①特定資産支出				
退職給付引当資産支出	500,000	890,400	△ 390,400	
近藤賞基金引当資産支出	19,000,000	9,225,434	9,774,566	注1
特定資産支出計	19,500,000	10,115,834	9,384,166	
投資活動支出計	19,500,000	10,115,834	9,384,166	
投資活動収支差額	△ 1,145,516	8,798,940	△ 9,944,456	
Ⅲ. 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	0	7,264,462	△ 7,264,462	
前期繰越収支差額	5,153,220	5,269,824	△ 116,604	
次期繰越収支差額	5,153,220	12,534,286	△ 7,381,066	

注：当事業年度の収支予算書については、これを組み替えて記載してある

収支計算書に対する注記

1 資金の範囲には、現金預金、未収金、未収会費、前払金、仮払金、未払金、前受金、前受会費、預り金及び仮受金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科 目	前 期 末 残 高	当 期 末 残 高
現 金	614,406	247,477
預 金 (振替貯金を含む)	29,718,149	37,748,817
未 収 会 費	1,355,910	1,625,620
そ の 他 の 未 収 金	228,522	246,874
前 払 金	7,340	34,049
仮 払 金 他	3,100	42,580
合 計	31,927,427	39,945,417
未 払 金	308,700	1,822,823
前 受 会 費	21,286,050	23,362,920
そ の 他 の 前 受 金	4,638,203	1,948,915
預 り 金	424,650	260,573
仮 受 金		15,900
合 計	26,657,603	27,411,131
次 期 繰 越 収 支 差 額	5,269,824	12,534,286

3 予算額と決算額の差異が著しい科目とその理由

注1 近藤賞基金の募集は今期見込みより、実績は△9.8百万円であった。

このために特定資産への支出もほぼ同額減少した。

今期に実施した近藤賞の授与の支出は、初期支出がかさみ56万円の超過支出となった。

注2 機関誌販売は、書店購読は予算を上回った。単発及び一般購読が予算を下回った。

注3 当年度は鳥取及び東京で行われた。東京大会は一部事業を50周年記念行事へ振替えたために収入は減少、支出は会場費・人件費を中心に減少し、研究発表会全体では1.1百万円の収入超過となった。

注4 50周年記念事業の実績差異について

	予 算	実 績	実績－予算
収入			
50周年記念事業積立取崩収入	8,000,000	8,000,000	0
50周年記念事業収入		746,881	746,881
	8,000,000	8,746,881	746,881
支出			
記念式典・パーティ	600,000	969,343	369,343
論文誌特集号(12月)	1,203,000	1,739,608	536,608
機関誌特集号補助	300,000	300,000	0
OR事典関係費用	2,500,000	2,240,925	△ 259,075
SSOR	310,000	0	△ 310,000
国際交流事業	1,000,000	1,010,000	10,000
予備費	2,087,000	0	△ 2,087,000
	8,000,000	6,259,876	△ 1,740,124
差額	0	2,487,005	2,487,005

貸借対照表

平成20年2月29日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	37,996,294	30,332,555	7,663,739
現金	247,477	614,406	△ 366,929
振替貯金	12,028,455	6,084,739	5,943,716
当座預金	25,586	25,586	-
普通預金	25,195,445	23,108,493	2,086,952
定期預金	499,331	499,331	-
未収金	1,872,494	1,584,432	288,062
未収会費	1,625,620	1,355,910	269,710
その他の未収金	246,874	228,522	18,352
前払金	34,049	7,340	26,709
仮払金他	42,580	3,100	39,480
流動資産合計	39,945,417	31,927,427	8,017,990
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	5,000,000	5,000,000	-
基本財産合計	5,000,000	5,000,000	-
(2) 特定資産			
退職給与引当資産	7,107,000	6,216,600	890,400
敷金当移転準備積立金資産	3,621,640	3,621,640	-
名簿作成準備積立金資産	800,000	800,000	-
国際協力積立金資産	6,000,000	6,000,000	-
記念事業積立金資産	11,143,931	11,143,931	-
表彰事業積立金資産	4,700,000	4,800,000	△ 100,000
OA化積立金資産	8,380,000	8,380,000	-
50周年事業積立金資産	5,000,000	13,000,000	△ 8,000,000
国際会議積立金資産	1,119,890	1,119,890	-
OR事典積立金資産	1,800,000	1,800,000	-
財政調整積立金資産	4,253,225	13,007,709	△ 8,754,484
特別研究積立金資産	5,000,000	5,000,000	-
近藤賞基金引当金資産	13,968,144	6,803,000	7,165,144
特定資産合計	72,893,830	81,692,770	△ 8,798,940

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
(3) その他固定資産			
什器備品	172,780	228,575	△ 55,795
ソフトウェア	268,027	337,947	△ 69,920
敷金・保証金	1,596,000	1,596,000	-
その他固定資産合計	2,036,807	2,162,522	△ 125,715
固定資産合計	79,930,637	88,855,292	△ 8,924,655
資産合計	119,876,054	120,782,719	△ 906,665
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,822,823	308,700	1,514,123
前受金	25,311,835	25,924,253	△ 612,418
前受会費	23,362,920	21,286,050	2,076,870
その他の前受金	1,948,915	4,638,203	△ 2,689,288
預り金	260,573	424,650	△ 164,077
仮受金	15,900	-	15,900
流動負債合計	27,411,131	26,657,603	753,528
2. 流動負債			
退職給与引当金	7,107,000	6,216,600	890,400
固定負債合計	7,107,000	6,216,600	890,400
負債合計	34,518,131	32,874,203	1,643,928
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	5,000,000	5,000,000	-
指定正味財産合計	5,000,000	5,000,000	-
(うち基本財産への充当額)	(5,000,000)	(5,000,000)	-
2. 一般正味財産	80,357,923	82,908,516	△ 2,550,593
(うち特定資産への充当額)	(72,893,830)	(81,692,770)	8,798,940
正味財産合計	85,357,923	87,908,516	△ 2,550,593
負債及び正味財産合計	119,876,054	120,782,719	△ 906,665

正味財産増減計算書

平成19年3月1日から平成20年2月29日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用収益			
基本財産受取利息	14,000		
② 受取入会金			
正会員入会金	75,000		
学生会員入会金	40,800		
③ 受取会費			
正会員会費	29,684,000		
学生会員会費	1,320,000		
賛助会員会費	7,898,000		
④ 事業収益			
会誌頒布収益	4,485,593		
研究発表会収益	4,275,000		
シンポジウム収益	155,000		
セミナー収益	1,080,000		
資料等頒布収益	141,300		
IAOR収益	315,000		
EJOR収益	527,000		
APJOR収益	210,000		
受託研究費収益	1,000,000		
50周年記念事業収益	746,881		
⑤ その他収益			
論文投稿掲載料	1,509,000		
広告料	4,344,000		
事務委託収益	150,000		
その他	9,500		
⑥ 受取寄付金			
受取一般寄付金	9,195,000		
⑦ 雑収益			
受取利息	257,455		
雑収益	200,216		
⑧ 引当金戻入			
引当金戻入	216,000		
経常収益計	67,848,745		

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
(1) 経常費用			
① 事業費			
給料手当	7,911,391		
臨時雇賃金	1,322,000		
旅費交通費	428,340		
通信運搬費	5,093,050		
減価償却費	125,715		
消耗品費	392,520		
会議費	138,138		
印刷製本費	11,327,977		
研究発表会	3,161,634		
IFORS会費	359,623		
IAOR購入費	275,967		
EJOR購入費	432,000		
APJOR購入費	166,642		
APORS関係費	82,754		
シンポジウム開催費	325,500		
セミナー開催費	1,448,049		
OR企業フォーラム	209,834		
研究部会費	909,794		
支部運営費	1,549,348		
支部事業費	537,926		
表彰事業費	1,451,543		
諸謝金	1,463,536		
受託研究費	1,000,000		
FMES関係費	463,971		
50周年記念事業費	6,259,876		
近藤賞関係支出	2,060,290		
② 管理費			
給料手当	7,911,391		
退職給付	162,000		
福利厚生費	2,189,473		
会議費	272,210		
旅費交通費	921,460		
通信費	771,106		
事務用消耗品費	20,204		
消耗品費	412,151		
修繕費	71,400		
印刷費	150,019		
家賃	3,750,384		
共益費	1,625,400		

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
保険料	10,000		
支払手数料	258,910		
租税公課	325,800		
負担金	3,500		
リース料	420,504		
OA化準備費	38,764		
損金	536,087		
雑費	544,757		
③ 引当金繰入			
退職給与引当金繰入	1,106,400		
経常費用計	70,399,338		
当期経常増減額	△ 2,550,593		
当期一般正味財産増減額	△ 2,550,593		
一般正味財産期首残高	82,908,516		
一般正味財産期末残高	80,357,923		
II. 指定正味財産増減の部			
指定正味財産期首残高	5,000,000		
指定正味財産期末残高	5,000,000		
III. 正味財産期末残高	85,357,923		

注. 当事業年度は新会計基準適用初年度であり、前事業年度との比較はない。

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産及び無形固定資産は定額法を採用しています。

(2) 引当金の計上基準

退職給与引当金

職員の退職給付に備えるため、期末要支給額（自己都合ベース）で計上しています。

(3) リース取引の処理方法

所有権の移転しないファイナンスリースであり、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

(4) 消費税の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2 会計方針の変更

平成19年度から新会計基準へ変更している。

3 基本財産及び特定資産の増減及びその残高

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産定期預金	5,000,000	-	-	5,000,000
小 計	5,000,000	-	-	5,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	6,216,600	890,400	-	7,107,000
敷金等移転準備積立金資産	3,621,640	-	-	3,621,640
名簿作成準備積立金資産	800,000	-	-	800,000
国際協力積立金資産	6,000,000	-	-	6,000,000
記念事業積立金資産	11,143,931	-	-	11,143,931
表彰事業積立金資産	4,800,000	-	100,000	4,700,000
OA化積立金資産	8,380,000	-	-	8,380,000
50周年事業積立金資産	13,000,000	-	8,000,000	5,000,000
国際会議積立金資産	1,119,890	-	-	1,119,890
OR事典積立金資産	1,800,000	-	-	1,800,000
財政調整積立金資産	13,007,709	-	8,754,484	4,253,225
特別研究積立金資産	5,000,000	-	-	5,000,000
近藤賞基金引当金資産	6,803,000	9,225,434	2,060,290	13,968,144
小 計	81,692,770	10,115,834	18,914,774	72,893,830
合 計	86,692,770	10,115,834	18,914,774	77,893,830

4 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財産からの 充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
基本財産定期預金	5,000,000	(5,000,000)	-	-
小 計	5,000,000	(5,000,000)	-	
特定資産				
退職給付引当資産	7,107,000	-	(7,107,000)	(7,107,000)
敷金等移転準備積立金資産	3,621,640	-	(3,621,640)	-
名簿作成準備積立金資産	800,000	-	(800,000)	-
国際協力積立金資産	6,000,000	-	(6,000,000)	-
記念事業積立金資産	11,143,931	-	(11,143,931)	-
表彰事業積立金資産	4,700,000	-	(4,700,000)	-
OA化積立金資産	8,380,000	-	(8,380,000)	-
50周年事業積立金資産	5,000,000	-	(5,000,000)	-
国際会議積立金資産	1,119,890	-	(1,119,890)	-
OR事典積立金資産	1,800,000	-	(1,800,000)	-
財政調整積立金資産	4,253,225	-	(4,253,225)	-
特別研究積立金資産	5,000,000	-	(5,000,000)	-
近藤賞基金引当金資産	13,968,144	-	(13,968,144)	-
小 計	72,893,830	-	(72,893,830)	(7,107,000)
合 計	77,893,830	(5,000,000)	(72,893,830)	(7,107,000)

5 担保に供している資産はありません。

6 固定資産の取得額、減価償却累計額及び当期末残高

科 目	取得額	減価償却累計額	当期末残高
(有形固定資産)			
什器備品	273,180	100,400	172,780
(無形固定資産)			
ソフトウェア	349,600	81,573	268,027
合 計	622,780	181,973	440,807

7 受保証・保証債務はありません。

8 関連当事者との取引について、該当事項はありません。

財 産 目 録

平成20年2月29日現在

(単位：円)

科 目	金 額	金 額
I. 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金手許保有高	247,477	
振替貯金		
東京振替貯金局	9,720,095	
根津振替貯金	102,810	
根津振替貯金2	780,550	
根津振替貯金50周年	1,425,000	
当座預金		
みずほ銀行 根津支店	25,586	
普通預金		
みずほ銀行 根津支店	15,830,954	
三井住友銀行 白山支店	2,207,811	
三菱東京UFJ銀行 千駄木支店	7,156,680	
定期預金		
三菱東京UFJ銀行 千駄木支店	499,331	
未収金		
19年度会費他	1,872,494	
前払金		
機関誌抜刷代他	34,049	
仮払金他		
秋季研究発表会会場費他	42,580	
流動資産合計		39,945,417
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
定期預金 みずほ銀行 根津支店	5,000,000	
基本財産合計	5,000,000	
(2) 特定資産		
退職給与引当資産 定期預金		
みずほ銀行 根津支店	7,107,000	
敷金当移転準備積立金資産 定期預金		
三菱東京UFJ銀行 千駄木支店	3,621,640	
名簿作成準備積立金資産 定期預金		
三菱東京UFJ銀行 千駄木支店	800,000	
国際協力積立金資産 定期預金		
三菱東京UFJ銀行 千駄木支店	6,000,000	
記念事業積立金資産 定期預金		
三菱東京UFJ銀行 千駄木支店	11,143,931	

科 目	金 額		
表彰事業積立金資産 定期預金 みずほ銀行 根津支店	4,700,000		
0A化積立金資産 定期預金 三井住友銀行 白山支店	8,380,000		
50周年事業積立金資産 定期預金 三菱東京UFJ銀行 千駄木支店	5,000,000		
国際会議積立金資産 定期預金 三菱東京UFJ銀行 千駄木支店	1,119,890		
OR事典積立金資産 定期預金 三菱東京UFJ銀行 千駄木支店	1,800,000		
財政調整積立金資産 定期預金 みずほ銀行 根津支店	4,253,225		
特別研究積立金資産 定期預金 みずほ銀行 根津支店	5,000,000		
近藤賞基金引当金資産 定期預金 みずほ銀行 根津支店	13,822,710		
普通預金・振替貯金 みずほ銀行 根津支店	75,434		
根津振替貯金50周年	70,000		
特定資産合計	72,893,830		
(3) その他固定資産			
有形固定資産 什器備品	172,780		
無形固定資産 ソフトウェア	268,027		
その他の固定資産 敷金・保証金	1,596,000		
その他固定資産合計	2,036,807		
固定資産合計		79,930,637	
資産合計			119,876,054
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金 OR2月号印刷代他	1,822,823		
前受金 20年度会費他	25,311,835		
預り金 職員社会保険料他	260,573		
仮受金 仮受会費	15,900		
流動負債合計		27,411,131	
2. 流動負債			
退職給与引当金	7,107,000		
固定負債合計		7,107,000	
負債合計			34,518,131
正味財産			85,357,923

平成 20 年度 21 年度 役員 候補 者 名 簿

会務役職	定 数	候 補 者	備 考 (非改選役員)
会 長	1 (1)	伏 見 正 則	
副 会 長	3 (1)	田 口 東	川 島 幸 之 助
”			野 村 淳 二
庶 務	2 (1)	相 澤 り え 子	矢 島 安 敏
国 際	1 (0)		鈴 木 勉
研究普及	2 (1)	伊 倉 義 郎	久 野 誉 人
編 集	2 (1)	藤 重 悟	山 下 英 明
会 計	1 (1)	佐 賀 井 重 雄	
涉 外	1 (1)	上 田 徹	
広 報	1 (1)	八 巻 直 一	
無 任 所	3 (2)	大 屋 隆 生	木 村 俊 一
		塩 田 光 重	
監 事	2 (1)	山 下 浩	逆 瀬 川 浩 孝

() 内は平成 20 年度改選数

第 4 号 議 案

平成 20・21 年度代議員候補者名簿

	氏 名		氏 名		氏 名
1	淺 田 克 暢	2 6	齋 藤 司 郎	5 1	生 田 目 崇
2	井 垣 伸 子	2 7	佐 藤 富 士 夫	5 2	行 方 常 幸
3	池 上 敦 子	2 8	澤 木 勝 茂	5 3	根 本 忠 明
4	池 上 匡 亮	2 9	三 道 弘 明	5 4	羽 鳥 彰 一
5	伊 田 嘉 昌	3 0	塩 出 省 吾	5 5	枇 々 木 規 雄
6	井 野 口 稔	3 1	神 正 照	5 6	藤 野 直 明
7	梅 沢 豊	3 2	杉 野 隆	5 7	前 田 隆
8	大 西 匡 光	3 3	鈴 木 敦 夫	5 8	前 田 博
9	大 橋 守	3 4	鈴 木 久 敏	5 9	牧 本 直 樹
1 0	大 山 達 雄	3 5	鈴 木 道 夫	6 0	松 山 久 義
1 1	海 生 直 人	3 6	関 谷 和 之	6 1	水 野 眞 治
1 2	樫 尾 博	3 7	高 井 英 造	6 2	武 藤 滋 夫
1 3	片 岡 靖 詞	3 8	高 橋 理	6 3	諸 星 穂 積
1 4	加 藤 直 樹	3 9	高 橋 幸 雄	6 4	矢 部 博
1 5	久 保 田 光 一	4 0	田 中 庸 平	6 5	山 上 伸
1 6	栗 尾 孝	4 1	田 辺 隆 人	6 6	山 下 勝 比 拵
1 7	栗 田 治	4 2	玉 置 光 司	6 7	山 田 茂
1 8	香 田 正 人	4 3	田 村 明 久	6 8	山 本 芳 嗣
1 9	腰 塚 武 志	4 4	土 谷 隆	6 9	米 沢 隆
2 0	小 島 政 和	4 5	時 永 祥 三	7 0	若 山 邦 紘
2 1	後 藤 順 哉	4 6	中 川 慶 一 郎		
2 2	後 藤 義 雄	4 7	中 出 康 一		
2 3	古 林 隆	4 8	中 野 一 夫		
2 4	近 藤 幹 雄	4 9	中 森 眞 理 雄		
2 5	今 野 浩	5 0	中 山 明		